

クマ送りの起源 ―オホーツク文化の骨塚より―

アイヌの文化のひとつである「クマ送り(イオマンテ)」。クマ送りの起源として、オホーツク文化(※)と考える説があります。このオホーツク文化には竪穴住居のなかに「骨塚」といって、クマの頭骨を祭壇上に並べているものがあります(写真1)。



写真1：復元した骨塚(オホーツクミュージアムえさし展示資料)

出典：高島 2003(参考文献4)

北見市常呂町にあるトコロチャシ遺跡の7号住居からは、102個のクマの頭骨が見つかっています(写真2)。

クマ以外には、エゾシカやアザラシといった海獣の骨も並べられていました。



写真2：第7号竪穴骨塚(トコロチャシ跡遺跡)

出典：高島 2003(写真1と同じ)

【骨塚を設けた場所】

骨塚が設けられた場所は、住居の奥の壁側に設けられるのが最も多く、それ以外には、出入口付近や、炉周辺にも設けられていました。

このほか屋外に設けられるものもあることから、多種多様な儀礼であったと考えられています。

※：「オホーツク文化」

オホーツク文化とは、5～13世紀にサハリン南部から北海道オホーツク海沿岸、千島列島にかけて展開した文化です。また、奥尻島にも遺跡が確認されています。

北海道の時代区分については、補助資料「[北海道の時代区分](#)」をご参照ください。

クマ送り(イオマンテ)の概要

アイヌのイオマンテ。「アーホイヨーアーイヨマン…」と伊藤久男の名曲である「イオマンテの夜(1950年発表 古関裕而作曲)」など歌にもなっているアイヌの儀礼です。

「イオマンテ」とは、飼育したクマの魂を神の国へ送る儀礼です。

イオマンテの方法は、山でクマを獲った場合と飼育した場合があります。

山でクマを送るときは、穴にこもっている成獣が対象となります。このとき、子グマがいる場合があります。その場合、子グマを決して殺すことはなく、村(コタン)に連れて帰り、1～2年もの間、大事に飼育します。

1～2年後の2～3月ころに、先に送った親グマが住む神の国(カムイモシリ)へ送るのです。

儀礼を行う際は、村(コタン)中の人々を集め、舞踊を踊り、歌を歌い、再び人間の世界に来てもらえるよう、祝います。



写真：クマ送りの様子(『蝦夷島奇観』 所蔵：東京国立博物館)

【参考文献(抜粋)】

- 1 内山幸子 2006 「オホーツク文化の動物儀礼」『北海道考古学』第4 2 輯 75～92 頁
- 2 角達之助 2004 「研究ノート 骨塚の方向について—オホーツク北方地域海東北部と南東部における骨塚の中心に—」『北方探求 第6号』 46～55 頁
- 3 瀬川拓郎監修 2019 「カラー版 1時間でわかるアイヌの文化と歴史」
- 4 高島孝宗 2003 「オホーツク文化の信仰と儀礼」『新北海道の古代2 続縄文・オホーツク文化』 162～181 頁 北海道新聞社
- 5 佐藤孝雄 2004 「「熊送り」の源流」『新北海道の古代3 擦文・アイヌ文化』 154～169 頁 北海道新聞社